

## 安全への提言



## 安全と人材育成は切っても切れない！

で 出 ぐち 口 あつし 敦†

「安全の確保」と聞いた時、何を初めに考えますか？ 私は石油化学の会社に在籍する事もあり、まずは保安防災・プロセス安全を考えますが、一般的には労働安全を思い浮かべる人が多いと思います。また、医薬や最終製品の製造に携わっている人は、消費者（お客様）の安全を第一に考えるのではないのでしょうか。安全を確保すると言う事は、その対象によって当然アプローチも異なり、また非常に奥が深く、一筋縄では達成できない事だと痛感しています。ただ、最後は人であり、多方面から安全を考えられる人材の育成がポイントになる事は共通していると思います。

石油化学を生業としている我々は、自然現象をコントロール下に置くことで、極端に言えば自然現象を無理やり捻じ曲げることで、石油等の原料から有用な製品を創り出しています。従って、時に人の予想に反した現象が現れます。単に装置の動かし方だけでなく、何故そのような操作が必要か、理由を知らなければ自然現象をコントロールすることは出来ません。そのため、物質とプロセス（反応）の危険性に対する原理・原則に精通した人材の育成が必要となります。ここは、安全工学会が得意とする所と言えます。

最近、よく使われる言葉に「見える化」がありますが、「見える化」の本来の目的は人材育成であると言えます。「見せる化」により一人一人の感性を磨き、見えない物を見る、すなわち見えない危険源をも見つけることができる人を育てる事です。当然、見せる側の工夫に加えて、見る側も意思（目的）を持って見ることが重要と言えます。

また、昔から安全の基本として、3Sが安全の母であり、点検整備は安全の父、作業標準が祖父と言われていています。作業標準を遵守する（不安全作業をしない）という祖父から、点検整備（設備の安全化）という父親、3S（快適職場の形成）という母親がいてこそ安全作業という子供が生まれます。最近では、日常業務の忙しさから作業標準の見直しがなござりにされたり、新人が理解できないといった事例もあるようです。弊社でも同様な事例があったため、人材の育成の点からも、作業員自身による新人目線での、かつ

Know-Why を盛り込んだ作業標準の定期的な見直しを推進しています。

さらに、過去のトラブルは多くの教訓（財産）を残しています。これらの教訓は、同じ失敗を繰り返さないために、設備対策、各種作業手順や安全活動としてルール化されてきました。しかし、守られたルールをきっちりと守るだけでは、未知（未経験の）トラブルを防ぐことは出来ません。過去のトラブルの本質を知り、なぜこのようなルールになったのか、その背景と真意を理解することが大切です。過去のトラブル事例を安全教育に利用したり、作業標準類に加えることは人材育成にも非常に有効です。

さて、弊社は「安全最優先」を行動目標に掲げて各種安全活動を推進してきましたが、4年前に大事な仲間を失い、さらに近隣の住民にも被害を与える大きな事故を起こしてしまいました。見えない危険源に気付かなかった…。事故の原因を安全文化にまで遡り、2度とこのような事故を起こさないとの誓いの元、意識改革を含めた人材育成の側面を持つ「抜本的安全対策」\*を策定し、現在も推進しています。「安全は全てに優先する」を社長自らが繰り返し説明する、全プラントの安全設計思想を見せる化する、小集団活動を活性化する等、全ての階層で全員参加の取り組みを進めています。ただ、見えない危険源をも見つけてトラブルの未然防止に繋げる人材の育成は一朝一夕ではできない事も事実であり、今後も肅々と、地道に安全活動を継続していく予定です。

以上のように安全と人材育成は切っても切れない関係にあります。安全工学会の役割の一つに「安全工学会が日本の安全教育の推進役を担う」とあります。今こそ、安全工学会の産学が連携して、現状の課題に積極的に関与して多くの成果を残すことが期待されています。

安全に強い人材を多く育てるためにも、安全工学会をこれまで以上に、どんどん活用して頂ければ幸いです。

\* 三井化学ニュースリリース  
2013年2月13日 安全な化学メーカーを目指して一抜本的安全に向けた今後の取り組み

† 三井化学（株）：〒105-7122 東京都港区東新橋1-5-2